

読むための古典文法

はじめに

この冊子を通して「古典文法」の学習をしてもらいたい。しかし、われわれの目標は「文法問題を解けるようになること」ではない。(もちろん解けるようにならないければならないが)。あくまでも目標は「古文を読むことができるようになること」である。そのためには、「じっくり考えればこの助動詞がどんな意味かわかる」などというレベルではないけない。長文を読んでいて例えば助動詞に出会った際、瞬時に文法的判断を下してその助動詞の意味が何かが分かり、その文の意味を理解できるというレベルに達してはならない。よって、小テスト前にこの冊子を10分ほど見て小テストに臨むなどというようなことではないけない。

- ①まず、該当項目を読んで理解する(その際補助として高校の文法の教科書や参考書の説明を読み、例文の中で確認するという作業もするとよい)。
 - ②次に必要なことを覚える作業をする(暗記事項をマーカーするのもよし、書き写すのもよし)。
 - ③覚えたことを使って問題が解けるかどうか確認するため、教科書の演習問題に取り組んだり、問題集の問題を解いたりする。
 - ④間違えた問題をもう一度見直し、問題の例文を音読し、その助動詞や助詞の訳し方を頭に刻み込む。
- 以上①～④を繰り返しやらないと使える文法にはならない。
健闘を祈る。

もくじ

第1章	用言		1
第2章	助動詞		4
第3章	助動詞		13
第4章	敬語法		20
第5章	識別		21
付録	敬語動詞一覧		26

用言に関しては活用を体にしたき込むこと。用言の活用が身に付いていることが古文の読解を支える土台である。かけ算の九九のレベルと同じくらいでなければならぬ。「考えたら分かる」とか「ちよつと待って。今思い出す」のレベルでは話にならない。「どのような用言でも即座にすら活用が言える」、動詞ならどんな動詞でも見た瞬間たちどころに「△行□段活用動詞の○○形」と言えるレベルでなければならぬ。

① 動詞

A 正格活用 まず正格活用をマスターしなさい。下接語、「ゝズ・ゝタリ・ゝ。ゝ時・ゝドモ・ゝ！」をつけて発音できるように練習すること。

① 四段活用

		ズ		タリ		時		ドモ		！	

A④ 上二段活用

	母音	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
起く	i	き	き	く	くる	くれ	きよ
お							
↑語幹							
↑語尾							
↑語尾を一般化							

*現代語の上二段動詞⇨未然形が「いナイ」となる動詞のほとんど

*「老ゆ」「悔ゆ」「報ゆ」はヤ行上二段(覚) ↓活用行に注意

A⑤ 下二段活用

	母音	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
受く	e	け	け	く	くる	くれ	けよ
う							
↑語幹							
↑語尾							
↑語尾を一般化							

*現代語の下二段動詞⇨未然形が「えナイ」となる動詞のほとんど

*「植う」「飢う」「据う」はワ行下二段(覚) ↓活用行に注意

*「得」「経」「寝」は終止形が一音(語幹と語尾の区別がない)(覚)

*なお、古語でア行動詞は「得」(+複合語「心得」など)しかない(覚)

A⑥ 正格活用まとめ

活用種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
下二段	e	e	u	うる	うれ	eよ
上二段	i	i	u	うる	うれ	iよ
下一段	e	e	er	er	ere	eよ
上一段	i	i	ir	ir	ire	iよ
四段	a	i	u	u	e	e
活用種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	ズ	タリ	。	時	ドモ	!

B 亦変格活用

下を付けても言えるし、付けずに機械的にも言えるように

B① カ行変格活用(力変)

来	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
来	○	こ	き	く	くる	くれ	ここよ

*「来」一語だけ(覚) 複合力変「出で来」「尋め来」などもある

B② サ行変格活用(サ変)

す	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
す	○	せ	し	す	する	すれ	せよ

*「す」「おはす」の二語(覚)

*複合サ変もある
 ①漢語(⇨音読み漢字) + す(ず) : 「奏す」「具す」「信ず」「禁ず」(↑ザ変とは言わない)
 ②名詞 + す : 「あるじす」「心地す」
 ③連用形(動詞が名詞化したもの) + す : 「送りす」「宿りす」
 ④副詞・形容詞(の変形) + す : 「先んず」「軽んず」等

問: 「具す」「申す」「愛す」「為す」「ものす」……サ変でないものはどれか?

B③ ナ行変格活用（ナ変）

死ぬ	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ぬ	し	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね

*「死ぬ」「いぬ」（往ぬ・去ぬ）の二語（覚）

B④ ラ変動詞（ラ変）

あり	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
あ	ら	り	り	る	れ	れ	

*「あり」「をり」「はべり」「いますがり」の四語（覚）

*複合ラ変もある……「持つ」＋「あり」↓「持たり」など

*副詞 さ（然）へソウ・ソノヨウへ
しか（然）へソウ・ソノヨウへ
かく（斯）へコウ・コノヨウへ
＋あり↓複合ラ変
さり へソウデアルへ
しかり へソウデアルへ
かかり へコウデアルへ

C 動詞の活用の種類の見分け方

i 所屬語の少ない、上（ひいきにみゐル）、下（蹴る）、変格活用動詞は、見た瞬間思い出す

ii それ以外は未然形「――ず」の形にしてみても（現代語の「――ナイ」と基本同じ）

「――ず」↓二段 活用が行は、例「思ふ」↓「思はず」↓ハ・四
「――ず」↓上二段 「ず」の直前 「落つ」↓「落ちず」↓タ・上二
「――ず」↓下二段 で判断 「求む」↓「求めず」↓マ・下二
*ただし、時にズレはある

▼かならず、問題集などで「動詞」の問題を解きなさい。それも、一個あたり1秒くらいで判断できる程度になりなさい。

② 形容詞・形容動詞

A 形容詞の活用 *どんな手を使って覚えてもよい。しかし、そこに形容詞があれば形容詞だと気づくようになつていなければならない。

主な用法	ク活用	語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
シク活用	高し	たか	（く）	から	かり	し	き	けれ	○
	美し	うつく	（しく）	しから	しかり	○	しき	しけれ	○
			（は）	くは	くなる	く	しかる	○	しかれ
			（ず）	くは	くけり	く	くべし	くども	命令する

*未然形の「――（し）く」はないと考えてよい

右↓本活用という
左↓補助活用（カリ活用）

→ラ変型

a 本活用は下に助動詞が接続できない（断定「なり」だけは本活用に付く↓「高きなり」「美しきなり」）
断定「なり」以外の助動詞がカリ活用に付く（カリ活用の下にあるのは普通の助動詞）

b 形容詞の仮定用法：形と訳し方を覚えよ（覚）

「くは・くは・くは・くは」⇨仮定⇨へもし・ならば・もし・かつたら（覚）

恋しくは来てみよかしちはやぶる神のいさむる道ならなくに

へもし恋しくはあれども（素晴らしくはあるけれど）のように仮定にならないこともある

*「いみじくはあれども」（素晴らしくはあるけれど）のように仮定にならないこともある

B 形容動詞の活用 *どんな手を使って覚えてもよい(覚)

	語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナリ活用	静かなり	しづか	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり	だうだう	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ
主な用法			くず	くけり	く。	く時	くども	命令する

↓平安時代より
鎌倉時代より

*「○○なり」という連用形は助動詞接続用、それ以外の場合は「○○に」を使う

*「○○なり」「○○に」の傍線部が「形容動詞の活用語尾かそれ以外か」という問題は頻出
こういうものが形容動詞なのかを知っておくとよい

- a 「○○はかなり」「○○やかなり」「○○らなり」「○○げなり」という形(「○○な様子である」の意)
b 「音読み漢字＋なり」「(優なり)」「(急なり)」「(艶なり)」など
c 単語知識として知っておくべきものもある

C 形容詞・形容動詞の語幹用法 (覚) 形容詞・形容動詞は語幹だけで使われることがある
形と意味と訳し方を覚えること

a 「感動詞＋語幹(十や)」で感動(語り手の実感)を表す(感動詞:「あな」「ああ」「あら」等)
あなきたなへああ汚いなあ! あなあさましやへまあ、あきれたことよ! ン

b 「語幹十の十体言」で感動(実感)を含みながら連体修飾する

c 「体言十(を)＋語幹十み」で原因理由を表し、へXが―なのでと訳す。「語幹十み」だけのことも
野をなつかしみへ野が慕わしいので
山深みへ山が深いので 花をなみへ桜が無いので

D 用言の音便について

動詞の連用形・形容詞の連体形の語尾などが、発音の便宜上、文法の規則からはずれた音になることがある。音便という。以下の四つ。

イ音便: 聞きて↓聞いて・継ぎて↓継いで・強き人↓強い人・悲しきかな↓悲しいかな 等
ウ音便: 給ひて↓給うて・呼びて↓呼うで・高く昇る↓高う昇る・楽しくて↓楽しくて 等
撥音便: 飛びて↓飛んで・死にて↓死んで・近かるなり↓近かんなり 等
促音便: 知りて↓知って・ありて↓あって・立ちて↓立って 等

*音便化している部分が、文法規則からはずれていることに気づき、元の形にもどせばよい

▼かならず、問題集などで「形容詞」「形容動詞」の問題を解きなさい。それも、一個あたり1秒くらいで判断できる程度にならなさい。語幹用法の問題も解き、例文を暗記するくらいしなさい。

第2章 助動詞

助動詞については、その助動詞の

a 活用（ほとんどは用言の活用）

b 接続（何形に接続するか）と

c 意味用法（および訳し方）

をまず覚え、複数の意味用法（訳し方）がある場合はその

d 見分け方（意味の識別法）

をマスターする。しかし、それは文法問題に答えるためではない（もちろん答えられねばならないが）。文章を読んでいてある特定の助動詞があった場合に、それがその助動詞だとすぐに気付き、文脈に応じた意味・訳し方が瞬時に思い浮かぶようになるためである。よって、この冊子を漫然と眺めるだけでなく、問題集や高校の文法教科書の問題を解き、例文を訳したり（訳を思い浮かべたり）の作業を必ずしなければならぬ。こういう冊子の性質上、この冊子には例文が少ない。なので上の作業は絶対に必要である。

また、助動詞の中には、たとえば打消の「ず」の連体形「ぬ」と完了（強意）の「ぬ」の終止形のように、直上の用言が何形か判断できなければ判別できない場合もあるので、用言の活用をマスターしていなければ助動詞の学習はできない。用言の学習が不十分な者は用言を完璧にすること。

【打消グループの助動詞】

1 ず

ず	未	用	止	体	已	命
ず	ず	ず	ず	ぬ	ね	○
ざり	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ	ざれ

* 未然形の「ず」はないと考えてよい

↓下に助動詞は接続できない（断定「なり」は例外）

（↑ず＋あり＝ラ変型）助動詞接続用…形容詞と似ている

接続…未然形

意味…イ 打消（上の語を打ち消し否定する）ヘーナイ

a 仮定用法「ずは・ずば・ずんば」⇨仮定もしないならば・もしなかったら⇨ 形容詞と似ている

この皮衣は、火に焼かむに焼けずはこそ、まことならめと

⇨この皮衣は火に焼いても、もし焼けなかったら本物だろうと……⇨

* 文中に「未＋ず」があったら、ヘーナイを思い浮かべること

▼文法教科書や問題集で「ず」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること。それを通して「ず」があれば瞬間的に「ヘーナイ」が思い浮かぶようになさい。

【過去グループの助動詞】

「けり」は過去以外の意味もある

2 き

き	未	用	止	体	已	命
*せ	○	き	し	しか	○	特殊

丸覚えせよ

接続…連用形（サ変・カ変には未然形についてもよい）（せ）（し）（しか）（き）（し）（しか）（き）（しか）

意味…イ 過去ヘー（シ）タ⇨直接経験の過去の回想

言葉ありき。⇨言葉があった

花こそ咲きしか。⇨花が咲いた

男なむ来し。⇨男が来た

a 未然形「せ」は「しせば、しまし」という反実仮想の文にしか用いられない（「まし」参照のこと）

* 文中に「用＋せ・き・し・しか」があったら、ヘーシタを思い浮かべること

3 けり

けり	未	用	止	体	已	命
けり	（けら）	○	けり	ける	けれ	○

接続…連用形

意味…イ 過去ヘー（シ）タ・ヘー（シ）タトイウコトダ⇨伝聞過去の回想 男の来けるをヘー男が来たのを

ロ 詠嘆ヘーダッタノダナ・ダナア⇨（俗に「気づきの『けり』という）

a 和歌や会話文の中で「くけり」「ぞ・なむける」「こそけれ」というように、文末（相当部）に「けり」があり、過去の話だとするとオカシイ場合は詠嘆。和歌の句切れ部にある「けり」はまず詠嘆。
今宵は八月十五夜なりけりと思し出でてへそういえば今夜は八月十五夜 仲秋の名月だつたのだなあ」と
* 文中に「けり」があると、へーシタを思い浮かべること。へーシタでおかしい時に、詠嘆を思い出すこと
▼ 文法教科書や問題集で、「き」「けり」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること。「けり」の過去・詠嘆の識別の問題を解くこと。

【完了のグループの助動詞】 意味は「完了」だけではない

4	5	6	7	8
つ	ぬ	たり	り	む
未	な	たり	ら	む
用	に	たり	り	む
止	ぬ	たり	る	む
体	ぬる	た	れ	め
已	つれ	た	れ	め
命	てよ	た	れ	め
型	下二	ラ変	ラ変	四段

接続：連用形

意味：イ 完了へータ・ーテシマウ・シマッタ

ロ 強意へキット・タシカニ

ハ 並列へーたりたり…二つ並んで終止形で使われる

a 「てむ・なむ・つべし・ぬべし」など、推量系の助動詞の上にある場合は強意が多い
* 命令形「ね」「てよ」も強意だと考えてよい

「潮満ちぬ。風も吹きぬべし」へ潮が満ちた。風もきつと吹くにちがいない

→ コッチは普通の完了

b 並列の「ぬ」「つ」…一度例文を見ておこうか

泣きぬ笑ひぬしまひけるへ泣いたり笑ったりしなさった

降りては降りつ、降りては降りつ…へ乗っては降りたり、降りては乗ったり…

* 「つ」「ぬ」があれば、へータ・シマッタを思い浮かべること。「てむ・なむ・つべし・ぬべし」の時には、強意を思い出す

6	7	8
たり	り	む
未	ら	む
用	り	む
止	る	む
体	た	め
已	た	め
命	た	め
型	ラ変	四段

接続：「たり」↓ラ変以外の連用形

← e 段音

「り」↓サ変の未然形・四段の已然形（命という説も）↓サ未四已「り」と覚える

意味：イ 存続へーテイル・ーテアル

ロ 完了へータ・ーテシマッタ

・筒の中光りたり。へ筒の中が光っている

* 「シたり」「ーエリ」を見た時にへーテイルを思い浮かべること。「ーテイル」でおかしい時だけ、完了。

▼ 文法教科書や問題集で、「つ」「ぬ」「たり」「り」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること。強意の「ぬ」「つ」を見分ける練習。「たり」「り」の意味の識別の練習をしない。

【推量グループの助動詞】 11個、微妙に意味（訳し方）が違う。その違いを理解し覚えること。

8	7	6	5	4	3	2	1
む	む	む	む	む	む	む	む
未	未	未	未	未	未	未	未
用	用	用	用	用	用	用	用
止	止	止	止	止	止	止	止
体	体	体	体	体	体	体	体
已	已	已	已	已	已	已	已
命	命	命	命	命	命	命	命
型	型	型	型	型	型	型	型

↑ 活用丸暗記した方がよい
↓ 「む」の本質をこう理解しなさい

接続：未然形

意味：イ 意志へーシヨウ・スルツモリダ

ロ 適当へーガヨイ・勧誘へーシマセンカ・ナサイ・シテクダサイ

ハ 推量ヘーダロウ< (可能推量ヘーデキルダロウ)上に仮定がある時・疑問文反語文の中であること有り
ニ 仮定ヘータラ、ソレー<・婉曲ヘーヨウナ<

a 文の途中 (中途半端な場所)にある「む」は連体形で仮定・婉曲

i 「一む体言……」 月の出でたらむ夜は……月が出ていたら、そんな夜は……< (仮定としての訳)

「月が出ているような夜は……」< (婉曲 〃)

ii 「一む助詞……」 花の咲かむこそ嬉しけれ。< 桜が咲いたら、それは (こそ) 嬉しい< (仮定)

「桜の咲くようなことは嬉しい」< (婉曲)

iii 「一む、……」 花咲かむ、見に行かむ。< 桜が咲いたら、(その時に・それを) 見に行こう< (仮定)

「桜が咲くような時に見に行こう」< (婉曲)

b 主語が一人称の時、意志のことが多い (多いだけで絶対ではない)

「我」明日動物園へ行かむ。< 明日動物園へ行こう・行くつもりだ<

c 相手に語りかけて「こそ……め」「……なむ(や)」「……てむ(や)」の時、適当・勧誘多

「汝も」もろともに行きなむ(や)「へ一緒に行きませんか・行ってください」<

d 主語が三人称の時、推量のことが多い

「明日晴れなむ」動物園楽しからむ。< 明日はきっと晴れるだろう。動物園楽しいだろう<

*すべて未来のこと表してはないか？

e 右のは人工的な例文なので、教科書で各意味に対応する例文を見て「なるほど a d のようになってい
な」と確認し、例文を音読し訳と見比べなさい。

*「一む」があれば「ヨウ・ヨウ」を思い浮かべる。それで何となく意味は分かる。わからなければ四回訳す

9 むず

むず	未	用	止	体	已	命	型
○	○	○	○	○	○	○	サ変

接続…未然形

意味…イ 意志

ロ 適当・勧誘

ハ 推量

「む」と同じ

…む十と格十す (サ変)

仮定・婉曲もあるが少ない・「む」と同じ考え方で解釈

10 じ

じ	未	用	止	体	已	命	型
○	○	○	○	○	○	○	無変化

接続…未然形

意味…イ 打消意志ヘーマイ・ナイツモリダ<

ロ 不適当・制止ヘーナイガヨイ

―シテクレルナ<

ハ 打消推量ヘーマイ・ナイダロウ<

「じ」は「む」の打消 (notむ)

接続・活用の出現場所が同じ

意味は「む」の否定・「む」の訳に「ナイ」を付ける

「む」の考え方を応用

法師ばかりうらやましからぬものはあらじ。< 法師ほど羨ましくないものはあるまい (ないだろう)<
二度とせじ。二度とするまい (しないつもりだ)<
a 口の「不適当・制止」というのは用例が少ない。イカ口かは文脈から考える。訳してみよう判断。
*「一じ」があった場合、「一マイ」を思い浮かべる
▼文法教科書や問題集で、「む」「むず」「じ」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業
をすること。それを通して意味の識別ができるようにならなさい。

11 らむ

(らん)・けむ (けん)

けむ	○	○	けむ	けむ	けめ	○	四段
らむ	○	○	らむ	らむ	らめ	○	四段
未	用	止	体	已	命		型

「む」に類似

「あり」「+」む「↓」あらむ「↓」らむ

過去「き」の古い未「け」「+」む

接続…「らむ」↓終止形 (ラ変型活用語には連体形につく) (二ウ段音接続)

「けむ」↓連用形

意味：

「らむ」

現在のことに關する推量：見えない場所のことを推量↓現在推量

見えていることに關して、その原因を推量↓現在の原因推量

イ 現在推量へ（イマゴロ）ーシテイルダロウ

ロ 現在の原因推量（ドウシテ）ーシテイルノダロウ（カ）・（ノデ）ーシテイルノダロウ（カ）

ハ 現在の伝聞へーシテイルトカイウ（コトダ）・現在の婉曲へーシテイルヨウナ↑④で

「けむ」

過去のことに関する推量

…単に過去のことを推量↓過去推量

（「らむ」の時制を過去にずらしたもの）

過去のことの原因を推量↓過去の原因推量

イ 過去推量へ（過去のアノ時）ーシタダロウ

ロ 過去の原因推量（ドウシテ）ーシタノダロウ（カ）・（ノデ）ーシタノダロウ（カ）

ハ 過去の伝聞へーシタトカイウ（コトダ）・過去の婉曲へーシタヨウナ↑④で

などや苦しきめを見るらむ。へどうして（こんな）つらい目を見ているのだろうか

（「ドウシテ」と理由を問うているので、現在の原因推量）

吹くからに秋の草木の萎るればむべ山風をあらしといふらむ（萎れるから）と原因を推量↓現在の原因推量

へ吹くとすぐに秋の草木が萎れるが、なるほど山風をあらし（荒らし・嵐）と言っているのだろうか

さることはべりけむ。へそのようなことがありましたらうあつたのでしよう（過去推量）

（鸚鵡：は）人の言ふらむことまねぶらむよ。へ人の言うようなことを真似するということだよ

（現在の婉曲・現在の伝聞）

a 原因推量は、「ドウシテ（＝な系・いか系）ーらむ・けむ」…「已ば、ーらむ・けむ」の形が多く、

目の前にあるものについて語っている。

b 和歌では、文脈から原因推量だと判断しなければならぬこともある…とりあえず次の二例を暗記

桜の花の散るを見てよめる

紀友則

久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ④（詞書に「花の散るをよめる」）

へ日の光もこんなにのどかな春の日に、どうしてこのようにあわただしく桜の花が散っているのだろうか

←④

春の色至り至らぬ里はあらじ咲ける咲かざる花の見ゆらむ④

へ春はどこへも一様に訪れてくるはずだから、春の気配が来る里来ない里ということはあるまい。なのに、どうして咲

いている花と咲いていない花とが見えるのだろうか

c 文の途中（中途半端な場所）にある場合、は連体形で、伝聞や婉曲という特殊な意味のことが多い

* 今後「ーらむ」を見たら「ーテイルダロウ」を思い浮かべる

「ー用けむ」を見たら「ータダロウ」を思い浮かべる

▼文法教科書や問題集で、「らむ」「けむ」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をする。意味の識別の練習もしておくこと。

13 まし

まし	未	用	止	体	已	命	型
まし (ませ)	まし (ま)	○	まし	まし	まし (ま)	○	特殊

接続：未然形

意味：イ 反実仮想（モシ）…タトシタラダロウニ

イ 実現不可能な希望へータライイノニ・ヨカッタノニ…イのバリエーション

ロ ためらいの意志へーシタモノダロウカ・シヨウカシラニ↑疑問語を伴う：何・誰・や・か等…まし

a 識別の仕方

もし…だったならば、
 まし、
 せ、
 ませ、
 ましか、
 まし

- * ましか 〓 反実仮想 ㊦
- * ませ 〓 反実仮想 ㊦
- * せ 〓 過去「き」 ㊦

③疑問文の中のまし
↓ためらいの意志へーしようかしら・したものでしょうか

鏡に色や形があつたならば、（何も）映らないだろうに

② ねたき。言はざら^ましを。↓実現不可能な希望(↑反実仮想公式でも疑問文でもない)へくやしい。言わなければよかったのに

③ これに何を書かまし。↓ためらいの意志　へこれに何を書こうかしら
* 「まし」はそれをみたらくくを思い浮かべようとひとことで言えない

▼文法教科書や問題集で「まし」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること。
的確に意味の識別ができるようになっておくこと。

なり	
○	未
(なり)	用
なり	止
なる	体
なれ	已
○	命
う変	型

(あの音・噂からすると、どうやらさうするようだ・くらしい)

意味…イ（聴覚による）推定（ーヨウダ・ラシイ、ースルノガ聞コエル）

a 音に関する情報があれば↓「推定」

笛をいとかしく吹きすまして過ぎぬなり。↓推定

「笛をたいそうおもしろく吹いて、通り過ぎてしまったようだ」
b 耳で音声を聞いて判断しているとおかしい場合は↓「伝聞

世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ…… ↓伝聞

＊「うなり」があれば、ラシイ・ソウダを思い浮かべる（断定の「なり」との識別はしないといけないが）

めり	
○	未
(めり)	用
めり	止
める	体
めれ	已
○	命
う変	型

視覚でキャッチした情報を元に判断推定したことを述べる語

（あの見た目からすると、どうやらするようだ・しているようだ）

接続：終止形（ラ変型には連体形）（Ⅱウ段音接続）

意味…イ（視覚による）推定へーヨウダ・ヨウニ見エル

口婉曲（事実を断定せず、やわらかく表現する）（↑ヨウダ）

^a 視覚が関係する時、「推定」

b目で見えて判断するはずがないことに「めり」が付いていたら「婉曲」

「もののあはれは秋こそまされ」と人ごとに言ふめれど、…… ↓婉曲

へ「しみじみした情趣は秋こそまさっている」と誰もが言うようだが、(目で見えるはずない)

*「ゝめり」があればへヨウダを思い浮かべる

cラ変型活用語十「めり」「なり」↓連体形の撥音便化や「ん」が無表記になっていることがある

例 寒し+めり ↓ 寒かるめり ↓ 寒かんめり ← 撥音便化
あり+なり ↓ あるなり ↓ あんなり ↓ 寒かめり
↓ あなり

←「ん」が無表記になっている

「こういう現象が起っていたら「なり」は伝聞推定

*今後文章を読んでいて「ゝaなり」や「ゝaめり」、例えば「ゝべかなり」「ゝなめり」に出くわしたら、ははん、元は「ゝべかなり」「ゝなるめり」だなど気づいて解釈できるように。

16
らし

未	用	止	体	已	命	型
らし	らし	らし	らし	らし	らし	無変化

客観的事実を元に判断推定したことを述べる語

(あのこと・このことからするとどうやららしい)

接続：終止形(ラ変型には連体形)(llウ段音接続)

意味：イ(根拠に基づく)推定へ：ラシイ

←このように根拠が明示されるのが普通

夕されば衣手寒しみ吉野の吉野の山にみ雪降るらし

へ夕方になると衣の袖のあたりが冷える。(この寒さからするとどうも)吉野の吉野山では雪が降っているらしい

aラ変型活用語十「らし」(撥音便を経由せずにいきなり)「る」の無表記を起こす。

出てくるのは、「あるらし」↓「あらし」↓「寒かるらし」↓「寒からし」↓「ゝけるらし」↓「ゝけらし」

「ゝなるらし」↓「ゝならし」の4パターン

*「ゝらし」があれば、へラシイを思い浮かべる

▼文法教科書や問題集で、「なり」「めり」「らし」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること 意味の識別の練習も。

17
べし

未	用	止	体	已	命	型
べし	べし	べし	べし	べし	べし	形容詞(ク型)

接続：終止形(ラ変型には連体形)(llウ段音接続) (←意味の識別の目安・目安であり絶対ではないが)

意味：ス推量へ：ダロウ・シソウダ・ニチガイナイ ↑主語ll三人称の時に多い(以下同)

イ意志へ：シヨウ・スルツモリダ ↑主語ll「私」の時

カ可能(推量)へ：デキル(ーデキソウダ) ↓

ト当然へ：ハズダ・ベキダ・ナケレバナライ

カ勧誘へ：ナサイ・シテクレマセンカ

適当へ：ガヨイ

命令へ：セヨ

*意味は「スイカトカメ」と覚えてね

*疑問や反語の文中では、「可能」「推量」「可能推量」が多い。

*文中で連体形「ゝべき」↓「ゝするはずのゝしそな」の「がよい」という訳がはまることが多い。

*「べし」は訳しづらい。普段は文中に「べし」があれば、なんとなくへベキダ・ハズダ・デキルのどれかをあてはめて読んでいけばよい。設問になっていけば、立ち止まって一つ一つ当てはめて判断する。

まじ	未	用	止	体	已	命	型
まじ	(まじく)	まじく	まじ	まじき	まじけれ	〇	形容詞 (シク型)
まじから	まじかり	〇	まじかる	〇	〇		

接続：終止形(ラ変型には連体形)(「ウ段音接続」)

意味：ス 打消推量へーナイダロウ・シソウニナイ・ナイニチガイナイ

打消意志へーマイ・ナイツモリダ

カ 不可能(推量)へーデキナイ(ーデキソウニナイ)へ

ト 打消当然へーナイハズダ・ベキデナイ・シテハナラナイ

カ 制止・不適當へーシテクレルナ／：ナイノガヨイ

メ 禁止 へースルナ

「じ」が「む」の否定ならば、「まじ」は「べし」の否定(ant beし)。意味用法も「べし」の裏返し。訳も「ナイ」を付けばよい。「べし」をマスターして、応用

*文中に「まじ」があれば、へーナイハズダ・ーベキデナイ・ーデキナイのうちの、どれかいいのを当てはめて読んでいくこと。設問になっていれば、立ち止まって判断する。

▼文法教科書や問題集で、「べし」「まじ」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること。意味の識別にも十分馴れておくこと。また、「べし」や「まじ」は、短文の例文では意味を確定しにくい場合もある。いまいち納得できないような問題については質問に来ること。

【使役・尊敬グループの助動詞】

21	20	19							
しむ	さす	す	未	用	止	体	已	命	型
しむ	さす	す	せ	せ	す	する	すれ	せよ	下二
しむ	さす	す	め	め	す	さする	さすれ	させよ	下二
しむ	さす	す	め	め	す	さする	さすれ	させよ	下二
しむ	さす	す	め	め	す	さする	さすれ	させよ	下二

接続：「す」…四段・ラ変・ナ変の未然形(四ラナ未接続) ↓「aす」

「さす」…それ以外の未然形

「しむ」…未然形

意味：イ 使役へ(「ニ」ーセル・サセル)

ロ 尊敬へーナサル・オーニナル

ハ 受身へーサレル／軍記物の中だけ

a 意味の識別の仕方

i 誰かに何かさせている時↓使役

ii 尊敬語を伴わない「す・さす・しむ」↓使役

iii 尊敬語(「給ふ」「おはす」「おはします」等)が伴う時(例「せ給ふ・させ給ふ」)↓尊敬が多い

iv 尊敬語(「給ふ」「おはす」「おはします」等)が伴う時でも、誰かに何かさせていたら↓使役

i 妻の姫にあづけて養はす。へ妻の老女に預けて育てさせる。↓使役

ii 聞かせ侍り。へ聞かせます。↓使役 (侍り)は丁寧語

iii 御簾を高く上げたれば、笑はせ給ふ。へ御簾を高く巻き上げたところ、(中宮は)お笑いになる。↓尊敬

iv 題出だして、女房にも歌詠ませ給ふ。へ題を出して、女房にも歌を詠まなさる。↓使役

v 軍記物の中では「受身」のこともある。

* 「す・さす・しむ」(尊敬語伴わず)へーセル・サセルを思い浮かべる

「させ給ふ・させ給ふ・しめ給ふ」↓(その人自身が)へーサセナル(尊敬+尊敬)なのか、

(誰かに何かを)へーサセナル(使役+尊敬)なのか、

立ち止まって判断すること

▼文法教科書や問題集で、「す」「さす」「しむ」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること。意味の識別の練習も。

る	る	
られ	れ	未
られ	れ	用
らる	る	止
らるる	るる	体
らるるれ	るれ	已
られよ	れよ	命
下二	下二	型

「らる」 ∴ それ以外の未然形
↓ 「ーらる・ーeらる・ーoらる」

口 受身へーレル・ラレル▽

ハ可能へーデキル

二 尊敬へ―ナサル

a意味の識別：現代語の「レル・ラレル」を思い浮かべて何となく分かれれば良い

・人間の心関係の語・無意識の動作とからむ時、自発であることが多い

笑ふ・泣く・嘆く・驚く・思ふ……等十る・らる

- 無理なら、四回訳していいのを選ぶ

* 「れ給ふ」「られ給ふ」の「れ」「られ」は普通尊敬ではない

イ いみじく思ひ嘆かるれど、いかがはせむ。へたいそう嘆かずにはいられないが、どうしようもない。 自発

口問ひつめられて、え答へずなり侍りつ。へ問ひ詰められて、答えることができなくなつてしまいました。受身

八目も見えず、ものも言はれず。へ目も見えず、なにも言うことができない。可能

二 かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき。へあの大納言は、どの舟にお乗りになるのだらうか、尊敬

* 「ゝる・らる」があれば、「ゝレル・ラレル」を思い浮かべる

▼文教教科書や問題集で、「る」「らる」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をすること。意味の識別の練習も。

25	たり	たり	なり	なり	
24	なり	なり	なら	なり	未
	たり	に	なり	用	
	たり		なり	止	
	たる		なる	体	
	たれ		なれ	已	
	たれ		なれ	命	
	形動	(ナリ)	形動	型	

接続：「なり」：体言・活用語の連体形・副詞・助詞

「たり」：体言

意味：イ 断定へーデアル

a 存在の「なり」
「場所なる体言」へゝニアル・ニイルX

春日なる三笠の山へ春日にある三笠山へ
家なる妹へ家にいる妻へ

b 断定の「なり」の連用形「に」↑次のような形の「に」で、「ーデアル」の「デ」と訳せるとき

「X」部分・「あり系」部分が省略されていることもある

てあり
へーデアル
*「て」へ接

に し 侍り・候ふ へーデゴザイマス 〔し〕 〔副〕 *

おはす・おはしますへーディラツシヤルへ

何事にか。へ何事であろうか。 (「にか」のあとに「あらむ」などが省略されていると考える)
 c 断定「なり」は助詞や副詞に接続することもある。 見ればなり。へ見たからである。 さなり。へそうである。
 * 「体言 or 体なり」があれば、へリアルを思い浮かべる

【希望グループの助動詞】

26 まほし

	未	用	止	体	已	命	型
まほし	まほしく	まほしかり	まほし	まほしき	まほしけれ	○	形容詞 (シク)

27 たし

	未	用	止	体	已	命	型
たし	たから	たかり	たし	たき	たけれ	○	形容詞 (ク)

接続：「まほし」…未然形 「たし」…連用形

意味：イ 希望へーシタイ・シテホシイ

【比況グループの助動詞】

28 ごとし

	未	用	止	体	已	命	型
ごとし	ごとく	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	形容詞(ク)

接続：連体+ごとし 連体+が格+ごとし

体言+ごとき 体言+の格+ごとし ↓こんなパターンで出てくる

意味：イ 比況 (似ているものに比べてたとえる) へーノヨウダ 文法では比喩のことを比況という

ロ 例示・同一へ (例エバ) ーノヨウダーノトオリダ・ト同ジダ

▼文法教科書や問題集で、「なり」「たり」「まほし」「たし」「ごとし」の練習問題を解き、例文を訳し、音読み訳を思い浮かべる作業をすること。

助動詞の場合は現代語にほとんど生き残っていないため28個すべてを丹念に学習しマスターしなければならないが、助詞はかなり現代語にも生き残っているし、現代語と同じ意味用法のものも多い。よって、

a 現代語にはない助詞・現代語にはない意味用法

b 入試でよく出題されたり解答のポイントになったりするもの

を学習しマスターすればよい。この冊子ではゴシック体になっている部分である。また、……を附した用法は入試に頻出というわけではないが、現代語とやや違う用法なので例文を一読しておくといよい。

【格助詞】 体言に接続し、その語の格（英語で言えばSとかOとか）を決める助詞

A〈格助詞〉「の」II「が」 a 〽 e (a・bは現代語と同じであるが)の意味をマスターし識別できるようになること

a 主格…… 「Xの……」〽 Xガ……

b 連体修飾格…… 「XのY」〽 XノY〽

c 同格……

「Xの……」〽 (X) ↑入れられる
「Xの……」〽 Xデ……スルノナX……

(基本)
文脈で判断
五パターンで
訳してみよ

d 準体格…… 「Xの」〽 Xノモノ・Xノナントカ〽

e 比喩……

(連用修飾格)

「Xの……」〽 Xノヨウナノ……

a 雁などの「つらねたる」がいと小さく見ゆるへ雁なんか「連なって飛んでいるのがとても小さく見える」

b 梅「枝へ梅の枝」

c 黒き馬「いたく荒々しげなるが走れり。へ黒い馬で、たいそう荒々しそうな馬が走っている」

d いかなれば四条大納言「はめでたく、兼久「はわるかるべきぞ。へどうして四条大納言の歌はすばらしく、私兼久のものが良くないはずがあるう（私の歌もすばらしいはずだ）」

e 玉「をのこ御子さへ生まれ給ひぬ。へ玉のような男のお子までお生まれになった」

B〈格助詞〉「を」(連用修飾格) ほぼ現代語と同じ。覚える必要なし

a 動作の対象へ……ヲ・動作の起点へ……ヲ・カラ等 文を書きて(対象) そこを立ちて東大寺に寄りて、(起点)

b 経過の場所へ……ヲ通ツテ、 かくて、宇多の松原を行き過ぐ。

C〈格助詞〉「に」(連用修飾格)

a 時・場所・方向・帰着点 cとdとをしつかりマスター
夕に寝ねて朝に起く。(時)

b 動作の対象・受身・使役の対象 若き人に見習はせて、(使役の対象)

動作の手段・原因・理由・資格 その他いろいろ

c 強調 (同じ動詞に挟まれている「に」)

動詞・用土に (十係へ副) 十同じ動詞へヒタスラ・ヤタラニ・ドンドン……スルへ

ただ腫れに腫れみちて、へただもうひどく腫れに腫れ上がって

d 敬主格 (上の語に対する敬意を表すとともに、上の語が主語になる)

Xに……尊敬語へXニオカレテハ……ナサルへ

(「X」は、場所を表す語が転じて貴人を表すようになった語……「上」「御前」「殿」など)
*現代語で「に」が主格になることはないので注意

御前にも起きさせ給へり。へ中宮様におかれても、お起きあそばしたへ

D〈格助詞〉「へ」(連用修飾格) 現代語と同じ a 動作の方向へ…へ 初瀬へ出で立つ。

E〈格助詞〉「と」(連用修飾格) bとcとをマスター

a 動作の共同・引用・変化の結果 等 …覚えなくて良い

b 強調 (同じ動詞に挟まれている「と」)

【動詞・用十と】(十へ係へ副) + 同じ動詞 へヒタスラ・ヤタラニ・ドンドン……スル・

アラユル・すべての……スル ↑下が連体形の時に多い

来と来ては、へひたすらやって来て、へ

生きとし生けるものへすべての生きていくもの(「し」は副助詞)

c 比喩へ…ノヨウニ ↑他の用法でおかしければコレ

東国の源氏、雲かすみと攻めのぼる。へ東国の源氏が雲や霞のように(大量に)攻め上る

d 引用へ…ト 渡守、はや舟に乘れ、日も暮れぬ」といふに

F〈格助詞〉「より」(連用修飾格) cとdとをしつかり

a 起点へ…カラへ 比較の基準へ…ヨリモ等 現代語と同じ

b 手段へ…デ 他方の馬より行くに己夫し歩より行けばへ他人の夫は馬で行くの私の夫は徒歩で行くので

c 経過の場所へ…ヲ通ツテ

前より行く水をば、初瀬川というなりけり。へ前を通つて流れていく川を初瀬川というのだったなあ

d 即時へ…スルヤイナヤ・スルトスグニ(連体形につく)

時の間のけふりとなりなんとぞ、うち見るより思はるる。

へたちまち煙になつてしまふだろうと、ちよつと見るとすぐに思われる

G〈格助詞〉「から」(連用修飾格) 覚えなくてよい

a 起点へ…カラ

b 手段へ…デ 徒歩からまかりて、言ひ慰め侍らむ。へ徒歩で行きまして、話して慰めましょう

c 経過の場所へ…ヲ通ツテ 直道から来つれどへ近道を通つて来たけれど

H〈格助詞〉「にて」(連用修飾格)

a 場所・時・年齢 島坂にて、人、響応したり。(場所) 十二にて元服し給ふ・(年齢)

b 手段・方法・原因・理由 等 船にて渡りぬれば、相模国になりぬ。以上のようなのは暗記する必要なし

c 資格へ…トシテ 「X(人)をY(役割)にて」へXヲトシテの形が多い

内裏の御使ひにて参れりければ、へ天皇のお使いとして参上したところ

I〈格助詞〉「して」(連用修飾格)

a 手段・方法へ…デ・ヲ使ツテ そこなりける岩に、指の血して書き付けける。

b 使役の対象へ…ニ・ニ命ジテ・ヲ使ツテ 人して、惟光召させてへ人に命じて、惟光を呼ばせなさつて

c 動作の共同のへ…デ…トトモニ

友とする人一人二人して行きけり。へ友とする人一人二人とともに行つたのだつた

▼文法教科書や問題集で「格助詞」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業を。

【接続助詞】 文と文とを接続し、その関係を表す助詞・接続と意味(訳し方)を暗記すること

A 主要な接続助詞の接続・意味と訳し方

a 十 + ば 順接仮定条件へ(モシ)くナラバ・タラ

悪人のまねとて人を殺さば、悪人なり。へ悪人のまねといつて、人を殺したならば、(それも同じく)悪人である

b **已 + ば** 順接確定条件・原因理由へノデ・カラ ↑ 文脈からいい方を選ぶ
偶然へ(タマタマ)ノシタトコロ・スルト (↑用例少ない)

恒常へノスルトイツモ・スルトカナラス (↑恒常はいつものこと一般的なことについて言っている場合)

「かぐや姫は」いと幼ければ、籠に入れて養ふ。↓順接確定条件・原因理由

へたいそう幼さかつたので、籠に入れて育てる

石山にこもりたれば、夜もすがら雨ぞいみじく降る。↓順接確定条件・偶然的関係

へ石山寺に籠もつたところ、一晚中雨がひどく降る

財あれば恐れ多く、貧しければ恨み切なり。↓順接確定条件・恒常的關係

へ財産があると必ず(なくては大変だと)心配が多く、貧乏だと必ずその嘆きが深刻である

c **止・形容詞の用「く」+ とも** 逆接仮定条件へ(タトエ)ノテモ・シタトシテモ

枝は折るとも、幹残らむ。へたとえ枝は切つたとしても、幹は残るだろう

d **已 + ども** (ど) 逆接確定条件へノダガ・ケレド

花咲けども、心うし。へ花は咲いたけれども、心は晴れない

e **未 + で** 打消接続へノナイデ

十月のつごもりなるに、紅葉散らで盛りなり。へ十月末日なのに、紅葉は散らないで盛りである

f **体 + が** 順接確定条件・原因理由へノデ・カラ
単純接続へノシタトコロ・スルト・ノダガ
逆接確定条件へノダガ・ケレド・ノニ
前後の文脈で判断

B その他の接続助詞

a **体もの・ものから・ものを** ↓ 逆接確定条件へノニ・ダガ・ケレド…「ものグループ」

つれなくねたきもの忘れがたきにおぼす

へ無情でうらめしいけれど忘れがたいお方だと思ひになる

* 「ものを」は和歌の句末で、終助詞的に詠嘆へノニナア・ノダナアのこともある

b ……用つつ ↓ 余情へ(何度も)ノシテ・ツツケテイルコトダノ和歌の文法にある場合はコレ

山里は秋こそことにわびしけれ 鹿鳴く音をさまし

へ山里は秋こそ格別に寂しいことよ。鹿の鳴く声に何度も目を覚まして

c **動詞用** 同時並行へノシナガラ
形・形動の語幹 ながら ↓ 逆接へノニ・ケレド
体言 そのままへノママデ・ノソックリソノママ丸ゴト全部

身はいやししながら母なむ宮なりける。へ身分は低かつたけれど母は皇族であつた ↓ 逆接

旅の御姿ながらおはしましたり。へ旅のお姿のままでいらつしやつた ↓ そのまま

▼ 文法教科書や問題集で、「接続助詞」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をする

【係助詞】 いろんな語について意味を添え、係り結びをする。接続は意識しなくともよい。

a 係助詞と結びの形

係助詞	結び	意味用法
ぞ	連体形	強調
なむ	疑問・反語	一つのことを取り立てて新知識を示す
や	疑問・反語	自分に強い確信がある
か	疑問・反語	相手への問いかけ・「か」より強い
こそ	強調	単純な疑問・反語
は	主題・強調・仮定など	「ぞ・なむ」より強い
も	列挙・添加など	「は・も」に関しては、特に係り結び、とはいわない 「は・も」も係助詞だということ覚えておいてください

*現代語に訳しにくい場合が多いので、無理に訳出しようとしなくてもいい

b 係りの副詞 ↓ 疑問反語、態様の意を持つ副詞は連体形で結ぶ

なに・なんぞ・なでふ・など
いかで・いかに・いかが …等
そのけぢめをば、
↑疑問反語↓ドウシテ・態様↓ドノヨウニの意の副詞
↓
連体形で結ぶ（「や・か」がなくても）

へ（成り上がり者と落ちぶれた者との）区別をどのようにして分けるのだろうか

c 強い疑問・強い反語の「やは」「かは」 ↓ 「反語」の可能性が高い

や	は	強い疑問・強い反語	↓ 反語の確率 80 %
か	は	強い疑問・強い反語	↓ 50 %

さる導師のほめやうやはあるべき。 ↓ 強い反語

へそのような導師の誉め方があるうか。 いやそんな誉め方はなからう

d 組み合わせの係助詞「もぞ」「もこそ」 ↓ 「不安・危惧・懸念」を表す

も	ぞ	…体	二つ組み合わせって不安・危惧・懸念の意を表す へが…かもしれない、それは困る…が…すると大変だ・いけない
も	こそ	…已	

〈係〉〈係〉

門よく鎖してよ。雨もぞ降る。 〈門をしつかり閉めなさい。雨が降るといけないから〉

〈係〉〈係〉

鳥などもこそ見つけ。 〈鳥なんかが見つけると大変だ〉

d 逆接挿入句を作る「こそ」

〈係〉	← 結び	「こそ……」の部分
こそ	……已	逆接挿入句になって へこそ……だけれど、――
挿入句になる		という意で下に続いていく

この頃の世の人は十七八よりこそ、経読み行ひもすれ、さる事思ひかけられず。

へこの頃の世間の人は十七、八歳から経を読んだり勤行したりもするけれど、（私は）そういう事は心にもかけない

*通常の場合は「こそ……、——」のように読点「、」が伴うが、和歌の場合は読点がないので文脈で判断しなければならない。

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる ↓逆接挿入句

春の夜の闇はわけがわからない。梅の花の色こそ見えないけれど、香りは隠れるか、いや隠れない。月見ればちちに物こそかなしけれわが身一つの秋にはあらねど ↓普通の係り結び

へ月を見ているとあれこれともの悲しいことよ。なにも自分一人にだけ来た秋ではないけれど

e 係助詞の文末用法 ……係助詞は終助詞のように文末で使われることがある

……	体言 or 体十ぞ。	強い断定・疑問
……	止 or 已	疑問・反語
……	体	疑問・反語
……	十か (は)。	

体

「いにかにかく言ふぞ」強い疑問へ「どうしてこのように言うのか」

止 止

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

f 結びの消滅(消去・流れ)

係助詞があるのに対応する述部で文が終止せず、下にだらだら続いている(文法規則違反) ことがある。

「本来「切れ失すれ。」とならないといけないのに下に「とも」が付いて続いている

たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりは、などが生きざらん。

g 結びの省略

係り結びをしているのだが(文法的には正しい)、その結び部分が省略されていることがある。

引用の下「言ふ」「聞く」「あらむ」「ありけむ」「及びそのバリエーション」が省略されることが多いが、その他のものが省略されることもある。

誠にただ人にはあらざりけりとぞ。(言ふ)

徳のいたれりけるにや。(あらむ)

いづれの御時にや。(ありけむ)

今日には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡守に問ひければ、「これなむ都鳥(なる)」といふ

▼文法教科書や問題集で、「係助詞」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をする」と。

【副助詞】いろんな語に付いて意味を添え、副詞のように下の用言にかかる。接続は意識しなくともよい。

a 「ばかり」イ限定へダケ・バカリ 程度へホド・クライ ↓現代語と同じ

b 「まで」イ範囲へマデ 程度へホドニ ↓現代語と同じ

c 「など(など)」イ例示ナド 口婉曲ヘナンカ ハ引用ヘナドト

☆副助詞「だに・すら・さへ」

d 「だに」

イ類推へサエ 軽いものを挙げて、言外にそれより重いものを類推させる

虫だに時節を知りたるよ。へ虫でさえ時節をしているよ。(まして、人間ならわきまえていて当たり

前だ) <

*「まいて・まして」と呼応し「Xだに〜」。まいてY……」(Xでさえ〜)。ましてY……」(Yならなおさらだろ?) < という形も多い。(右は「まして」以下が省略されている例)

口 最小の限度へセメテ〜ダケデモ ↓ 下に命令・願望・希望・意志・仮定があるとき

今宵だに、人しずめていとくあはむ。へせて今夜だけでも、人を寝静まらせてたいそう早く会おう

e 「すら」類推へ〜デモ・デサエ ↓ 重い(軽い)ものを示して軽い(重い)ものを類推させる

聖などすら前の世のこと夢に見るは、いと難かなるを、

へ高僧などでも、前世のことを夢に見るのは難しいらしいので、(まして凡人である自分には無理なので)

f 「さへ」添加へ(…ノ上ニ、サラニ)〜までも) へサエと訳してはならない

見る目のいときたなげなきに、声さへ似る者なく歌ひて、

へ見た目がいかにこぎれいなうえに、声までたとえようもなく美しく歌って

g 「し・しも」強調へとくに訳さなくてよい) ↓ 省略しても意味が通じるような「し」「しも」

今し、羽根といふ所に来ぬ。へ(ちようど)今、羽根という所に来た

偽なきにしもあらず。へ偽りがないわけではない

*「——し——ば」という形が多い

h へ副助詞「のみ」イ限定へ〜ダケ) ロ強調へ〜バカリ

*強調「のみ」の訳し方の工夫…「のみ」が強調で使われているとき、こんな訳し方をする

XをのみVす。へXをVしてばかりいる。ばかりである。 ↑「XだけをVする」ではおかしい場合

御心の迷惑はして去りなむことの、悲しく耐へがたく侍るなり。

へお心を乱してばかりいて(月の世界に) かえつてしまうことが悲しく耐えきれないので

▼文法教科書や問題集で、「副助詞」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をする」と。

【終助詞】文末で用いられ上の語に特定の接続をし意味を添える…接続と意味用法(訳し方)を覚えること

A 文末かし ↓ 念押しへ〜ヨ・ネ

いま一度起こせかし。へもう一度起こしてくれよ

*文末接続(「かし」(念押し)や「な」(詠嘆は文末接続)

その語自体は、「上の語を何形にする」という働きは持たず、他の要因で決定された文末の形に接続する

B 「な」の識別→終助詞「な」はいくつかある。

未 な ↓ (自己)の希望へ〜たい) 遊び暮らさな。へ遊びくらしたい) ↑ただし奈良時代の語

文末 な ↓ 詠嘆へ〜だなあ・だよ) 憎しとこそ思ひたれな。へ憎らしいと思っているのだなあ

止(ラ変型には)体) な ↓ 禁止へ〜するな) 東風吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて春を忘るな

へ春の東風が吹いたらその匂いを吹き送ってくれよ、梅の花よ。主人がいなくなるといつて春を忘れるな

*「終止形+な」の場合は、「禁止」なのか「詠嘆」なのかは文脈で判断すること。

C **な** **動詞・用** **そ** 禁止へゝしてくれるな (「止十な」より柔らかい) (*「な」は副詞・時に省略される)

*ただし力変・サ変には未然形接続「なこそ」へ来てくれるな (このまま)

「なせそ」へしてくれるな

丸覚え

春な忘れてそ へ春を忘れてくれるな ↑上の「な」は副詞だからね。勘違いしないで。

D **体言** **形・用** **も** **が** **な** **も** **が** **も** 他への願望へゝがあったらいいなあ・ゝであればいいなあ

その他・助詞など **が** **な** …現在存在しない物・そうでない状態を願望する

老いず死なずの薬もが。へ不老不死の薬があればいいのになあ

「とく京へもが。へはやく都へ行きたい」

E 自己の希望と他への願望 … **自己の希望** (自分がゝしたい) と **他者への願望** (誰かにゝしてほしい) を区別すること。他者に対する願望を「あつらえ (の終助詞)」といったりもする

未 **ばや・な** **用** **てしがな** **にしがな** ↓ **自己の希望** へゝしたい

…て(＝完了・用・に)(＝完了・用・な)(＝終・詠嘆)は省略されることがあり

ほととぎすの声たづねに行かばや へほととぎすの声をたづねに行きたい

いかで、このかぐや姫を得てしがな どうにかしてこのかぐや姫を手に入れたいものだ

F 未 **かなむ・ね・に** ↓ **他への願望** (あつらえ) へゝしてほしい

「惟光とく参らなむ」とおぼすへ「惟光が早く参上してほしい」とお思いになる

G **体言** or **体** **か** **かな** **かも** ↓ **詠嘆** へゝコトヨ

風吹けば峰にわかるる白雲のたえてつれなき君が心か

へ風が吹くと峰から別れていく白雲のように、まったく(私に) つれないあなたの心だなあ

【間投助詞】 …比較的自由に文節間に投入される・三語丸暗記せよ

を **よ・や**

イ 詠嘆へゝヨ・コトヨ

ロ 呼びかけへゝヨ

ハ 強調・整調へゝネ・訳さない 萩が花散るらむ小野の露霜に濡れて **を** 行かむさ夜はふくとも

へ萩の花が散っている野原の露や霜に濡れて(ね) 行こう。(辿り着く頃には) 夜は更けるにしても

*「を」省略しても意味が通じる(そして目的語に付くわけでない) とき、整調・強調

*文末にある「や」の識別 ― へ係かへ間か? ↓ 文脈で判断 (疑問や反語で訳せるかどうか)

あはれ、いと寒しや。へああ、たいそう寒いなあ

↓ へ間 詠嘆

御子はおはすや。へお子さまはいらっしゃるのか

↓ へ係 疑問

我も死に、聖も失せなば、たづね聞きてむや

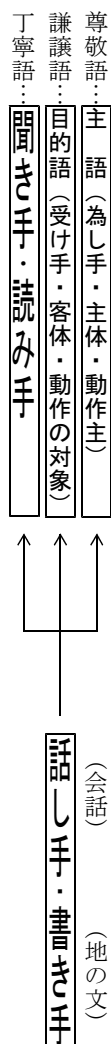
へ私も死に、高僧も亡くなったならば、尋ね聞くことができようか。いやできない ↓ へ係 反語

▼ 文法教科書や問題集で、「終助詞」の練習問題を解き、例文を訳し、音読し訳を思い浮かべる作業をするこ
と。

第4章 敬語法

- i 敬語の種類は↓（文脈とは関わりなく）前もって決まっている⇨暗記するしかない（↓27～28頁）
 ii 敬意の方向は↓（文脈とは関わりなく）種類によって方向が決まっている⇨左の方向図に当てはめる

A 敬意の方向（文脈からは分からない。種類によって決まっている）



・複数の方向の敬意を表す場合は、組み合わせる。順番は、**謙譲**→**尊敬**→**丁寧**の順

B 敬意の方向の判定の仕方（文脈とか、推理とかからではわからない）

- ① その敬語の種類（尊敬か、謙譲か、丁寧か）を判定する（↑暗記による）
 ② 右の敬意の方向図にあてはめる
 ③ その場面における、主体・客体・聞き手の判定は、文脈から ↑これは、文法事項ではない

C 本動詞と補助動詞：動詞に「本動詞」という種類と「補助動詞」という種類があるわけではない

本動詞…**本**⇨ある動詞が文の中で動作・作用・存在を表している場合「本動詞」という↑動詞本来の働き

補助動詞…**働**⇨その動詞が文の中で動作等を表さず意味を添えているだけなら「補助動詞」という

・ほとんどの動詞は「本動詞」ではない。一部、「本動詞」にも「補助動詞」にもなる動詞がある。
 敬語動詞は二つの用法をもっているものが多い。

▼文法教科書や問題集で、「敬語」の練習問題を解くこと。

第5章 同立言語の識別

本来、ここまでに書いてあることを理解しマスターしていれば、わざわざこんなことを新たに覚えなくても、識別はできるはずであるが、横断的に見渡すために書いておく。「なるほどそりやそうだ」と納得し理解すると共に、問題集などを使って解く練習をすること。

もちろん。識別の基本は「上見て下見て形見て、（それでも分からぬ場合は）文脈考えて矛盾のない線を導け」。

A 「ぬ」「ね」の識別……①打消「ず」体・已 ②完了（強意）「ぬ」止・命

① 未＋「ぬ」「ね」↓「ず」 花咲かぬ。

② 用＋「ぬ」「ね」↓「ぬ」 花咲きぬ。

*上が「未」用「判断できない場合（下二段・上二段など）

③ 係が絡む時 「うぞ・なむ・や・か—ぬ」「こそ—ぬ」↑「ず」

④ その他 「ぬ」—「ぬ」—「ぬ」↓「ぬ」

⑤ 「ぬ」X「ぬ」—「ぬ」—「ぬ」ば「ぬ」↓「ず」

⑥ その他「死ぬ・往ぬ」「夜ね（寝）て、朝置く」などもあるかも

③ 馬なむ逃げぬ。 汝こそ消えぬ。

④ 馬逃げぬ。 汝消えぬ。

⑤ 逃げぬ馬 汝消えぬども

▼文法の問題集で、「ぬ・ね」の識別の練習問題を解くこと。

B 「る」「れ」の識別……①自発受身可能尊敬の「る」 ②存続完了「り」 ③その他

e

① 未四已＋「る」「れ」↓存続・完了「り」

a

② 四ラ未＋「る」「れ」↓自発・受身・可能・尊敬「る」

③ その他↑上・下・形・文脈

泣ける

泣かる ↓*

泣きたる

* ②「自発」受身「可能」尊敬の判断↓「レル・ラレル」を思い浮かべてなんとなく判断

・心の動きに関する場合「自発」が多い

▼文法の問題集で、「る・れ」の識別の練習問題を解くこと。

C 「なむ(ん)」の識別……①終助詞 ②助動詞 ③助動詞 ④ナ変・未語尾＋「む」 (花の公式)

① 未＋「なむ」 ↓ 終(他への願望)
花咲か^未なむ。 <終> 花が咲いてほしい

② 用＋「なむ」 ↓ 助動(強意「ぬ」) ⊕ 助動(む)
花咲き^用なむ。 <ぬ十む> 花がぎつと咲くだろう

③ それ以外の「なむ」 ↓ 係
花^係なむ咲く。 <係> 花が咲く

④ 死なむ・去(往)なむ ↓ ナ変動 ⊕ 活用語尾＋助動「む」
ただし、
「ぜんぶ」 ⊕
形(し)く
形動に
助動と
「ず」
「まじく」
「に」
用 <係>
花美しく^用なむ。 <係> 花が美しく(咲く)
花美しく^用なむ。 <ぬ十む> 花がぎつと咲くだろう
このときは、⊕についていても「なむ」は<係>

*未・用が同型＋「なむ」……文中にあれば、終助詞でなく、「な」＋「む」 「求めなむに、行けば」
文末にある場合は文脈で<終>か「助動＋助動」か判断 「逃げなむ」

*形容詞・形容動詞・「ず」＋「なむ」

美しく^{思はず}なむ 静かに^{思はず}なむ ↓ 係助詞
美しく^{思はざり}なむ 静かなり^{思はざり}なむ ↓ 助動＋助動

▼文法の問題集で、「なむ(なん)」の識別の練習問題を解くこと。

D 「らむ(らん)」の識別……①現在推量の助動詞「らむ」 ②存続完了「り」未＋「む」 ③その他

① 止(ラ変型・体)＋「らむ」 ↓ 現在推量「らむ」
思ふ^{思ふ}らむ

② サ未四已＋「らむ」 ↓ 「り」未＋「む」
思へ^{思へ}らむ

③ その他
思ひ^{思ひ}たらむ 等

▼文法の問題集で、「らむ(らん)」の識別の練習問題を解くこと。

E「に」の識別……①格助詞・②接続助詞・③断定の「なり」の連用形・④助動詞「ぬ」の連用形・

⑤形容動詞の連用形活用語尾・⑥ナ変動詞の連用形活用語尾・⑦格助詞「にて」の一部・⑧副詞の一部

①	体言に ↓格	…… *	同じ動	に (へ係へ副) 同じ動 ↓格強調
	名補える	へヒタスラ・ヤタラニ——スル		
②	⑥に ↓接	…… 文と文をつないでいる・へーノデ・スルト・ノニと訳せる		
	名補えず			
③	体言に ↓断定の助動「なり」	⑥ →「デアル」の「デ」と訳せる		
	⑦に ↓「デアル」の「デ」と訳せる			
	——に (X) (あり系)	(「X」部分・「あり系」部分が省略されていることもある)		
	——に	て あり	へデアル	*「て」へ接
	し	侍り・候ふ	へデゴザイマス	*「し」へ副
	へ係	おはす・おはすますへーデイラツシャル		
④	⑥に ↓助動「ぬ」の	…… 「に」き・「に」けり」のことが多い		
⑤	状態様子性質に ↓ナリ形動の	⑥語尾 …… 「たいそう○○だ」といえる		
⑥	死に・去(往)に ↓ナ変動の	⑥語尾		
⑦	体言に ↓格	「にて」の一部 →「デアル」の「デ」と訳せない		
⑧	○○に ↓副詞の一部	…… 用言を修飾しているが「たいそう○○だ」といえない		

⑤形容動詞の活用語尾は左のような形

a「○○はかに」「○○やかに」「○○らに」「○○げに」「○○な様子である」の意

b「音読み漢字+に」「優に」「急に」「艶に」など

c単語知識として知っておくべきものもある

① まだ院の住ませ給ひけるをりに、夜中ばかりに西の対の妻戸を開けて、……

② 涙のこぼるるに、目も見えずもの言はれず。

① 桂川、月の明きにぞ渡る。

③ これは龍のしわざにこそありけれ。 (「龍のしわざにこそ侍れ」であつても同じ)

④ 君なくてけぶり絶えにし塩釜のうらさびしくも見えわたるかな

⑤ 貫之、土佐より上りて、参りて見けるに、あはれにおぼえければ、

⑦ 芝の上にて飲みたるも、をかし。

⑧ 親しき人なりけると見るにも、さすがに恐ろし。

▼文法の問題集で、「に」の識別の練習問題を解くこと。

F「なり」の識別…①断定の助動詞 ②伝聞・推定の助動詞 ③形容動詞の活用語尾 ④動詞

① **体言 or なり** ↓断定 …「X(する)なり」へX(するのだ) *在の「なり」もある

② **なり** ↓伝聞・推定 …「Xすなり」へXするらしい・するそうだ
→(ラ変型の場合は㊸)
はつきり目で見たわけではないので断言できない・
聞いた音声から↓推定・伝え聞いたこと↓伝聞

*文法的に①②を区別できないとき(㊸㊸同形の動詞+なり・ラ変型㊸+なり等)は、文脈から判断

a	うわさ・人の話	+	なり	↓伝聞
b	音・声	+	なり	↓推定
c	その他	+	なり	↓断定
d	形容詞—かん		なり	↓伝聞・推定
e	形容詞—か		なり	
f	ラ変型語の撥音便・「ん」の無表記が起こっている		なり	↓伝聞・推定
	(「寒かんなり」「親ものし給はざなれば」等)			

③ **態様語 なり** ↓ナリ活用形容動詞の活用語尾 …状態様子の語につくとき

④ **に・と + なる** ↓ラ四動詞「なる」…(become)の意があるとき
ず等

③ 形容動詞の活用語尾は左のような形

a 「○○かなり」「○○らなり」「○○げなり」「○○な様子である」の意

b 「音読み漢字+なり」「優なり」「急なり」「艶なり」など

c 単語知識として知っておくべきものもある

*「ず」+「なり」は…「行かぬなり」↓断定 (漢文調の場合「行かざるなり」↓断定のことも)

「行かざるなり」「行かざなり」↓伝聞推定

「行かずなり」↓ラ・四・動詞 へ行かなくなる

止 伝聞・推定 体 断定

② 男もすなり 日記といふものを女もしてみむとてするなり

伝聞・推定

b 笛をいとかしく吹きすまして過ぎぬなり

「あり」の連体形の撥音便「あん」の「ん」の無表記

f 世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ

ナリ形容動詞の語尾 →伝聞・推定

③ いと優なり

ラ四「なる」の用

④ 髪もいみじく長くなりなむ

▼文法の問題集で、「なり」の識別の練習問題を解くこと。

G 「にて」の識別：①断定「なり」用＋接続助詞 ②格助詞

①	体言	にて	→「デアル」の「デ」と訳せる↓断定用「に」＋接「て」
②	体言	にて	→「デアル」の「デ」と訳せない↓格「にて」

H 「し」の識別：①過去「き」体 ②サ変の用 ③副助詞 ④その他

①	用＋し	↓過去助動「き」④	*サ変力変には④にも付く
②	体言（を）し	（等）	ヘスルの意↓サ変動④
③	し	省略しても意味が通じる↓副助詞・強調	→「しーば」という形を取ることが多い
④	形容詞の一部やその他などということもある		

❧ 花咲きし枝
女もしてみむ・出家してけり
船をしぞ思ふ
宮内はまだしかるべけれど

I 「して」の識別：①格助詞 ②接続助詞 ③サ変・用＋接続助詞 ④その他

①	体言＋して	↓格	（a手段方法・b使役の対象・c動作の共同）
②	用＋して	（ずして・にして・くして）	↓接
③	X（を）して	↓サ変・用＋接	→「し」がヘスルの意をもつ
④	動詞の用・語尾＋完了「つ」用	ということもありうる	

①指の血して書きつける b人して権光召させて c一人二人して行きける

②ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず

いたり賢くして、時の人に思すなりけり

③のどかに物語して帰りぬる、

④漏らしてけり

▼このような問題も文法の問題集にあれば、練習問題を解くこと。

付録1 敬語動詞一覧

本当はね。こんなの自分で作る方がいいんだけど、載せておきました。できれば自分で作ってください。このページを書き写すだけでもいい。希望者には、書き込み用のシートをあげます。申し出てください。

語	活用	種	訳し方		普通語
給ふ(賜ふ)	ハ四	尊	本	お与えになる・くださる	与ふ・やる
給ふ(賜ふ)	ハ下二	謙	補	くなさる・おくになる	×
給ふ(賜ふ)	ハ四	尊	本	お与えになる・くださる	与ふ
給ふ(賜ふ)	ハ四	尊	補	くなさる・おくになる	×
賜はす	サ下二	尊	本	お与えになる・くださる	与ふ
参る	ラ四	謙	本	①(貴所に)参上する・出仕する ②差し上げる	①行く・来・②与ふ
参らす	サ下二	謙	本	差し上げる	与ふ
詣づ	ダ下二	謙	本	①参上する ②(神仏に)お参りする	行く・来
罷る	ラ四	謙	本	(貴所から)退出する・参上する	出づ・行く
罷つ	ダ下二	謙	本	(貴所から)退出する	出づ・行く
奉る	ラ四	尊	本	召し上がる・お召しになる・お乗りになる	飲む・食ふ・着る・乗る
侍り	ラ変	謙	本	あります・おります・ございます	あり
候ふ	ハ四	謙	本	(貴人の)側近くお仕える・お控える・伺候する	仕ふ・居り
仕うまつる	ラ四	謙	本	①お仕え申し上げる ②いたす	①仕ふ②す
聞こゆ	ヤ下二	謙	補	しし申し上げる・おくする	×

聞こえさす	サ下二	謙	本	申し上げる	言ふ
申す	サ四	謙	本	申し上げる	言ふ
おはす	サ変	尊	本	いらつしやる	あり・行く・来
おはします	サ四	尊	補	ゝていらつしやる	×
いまそかり	ラ変	尊	本	ゝていらつしやる	あり
みますがり		尊	補	ゝていらつしやる	×
宣ふ	ハ四	尊	本	おつしやる・おおせになる	言ふ
のたまはす	サ下二	尊	本	おつしやる・おおせになる	言ふ
仰す	サ下二	尊	本	①お命じになる ②おつしやる	①命ず②言ふ
おもほす	サ四	尊	本	お思いになる	思ふ
思す	サ四	尊	本	お思いになる	思ふ
思し召す	サ四	尊	本	お思いになる	思ふ
聞こしめす	サ四	尊	本	①お聞きになる ②召し上がる ③お治めになる	①聞く②飲む食ふ③治む
しろしめす	サ四	尊	本	①ご存じである ②お治めになる・ご統治あそばす	①知る②領る
召す	サ四	尊	本	①お呼び寄せになる・お取り寄せになる	①呼ぶ・取り寄す
大殿籠る	ラ四	尊	本	②召し上がる・お召しになる・お乗りになる	②飲む食ふ・着る・乗る
遣はす	サ四	尊	本	お休みになる・お眠りになる	寝
遊ばす	サ四	尊	本	なさる	やる
ご覧	サ変	尊	本	ご覧になる	見る
賜はる	ラ四	謙	本	いただく	受く
承る	ラ四	謙	本	①お受けする ②お聞きする	①受く②聞く
奏す	サ変	謙	本	〔天皇・院に〕申し上げる・奏上する *絶対敬語	言ふ
啓す	サ変	謙	本	〔皇后・皇太子などに〕申し上げる *絶対敬語	言ふ

*太枠のものは、敬語の種類・意味が複数あるからキチンとマスターしてね
 *似たような意味・対義になるものは近くに載っています。セットで覚えて

*また、同系統の語では、長い方が敬意の度合いが強い

例 のたまふへのたまはす 聞こゆへ聞こえさす ↓意味は同じだが敬意の度合いが違う
 (「参る」と「参らす」の関係はちよつと違う)